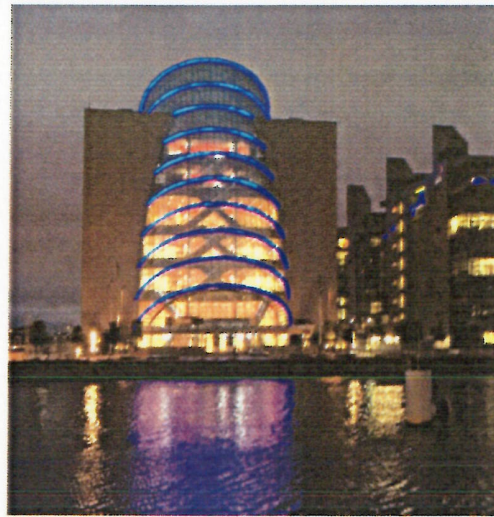
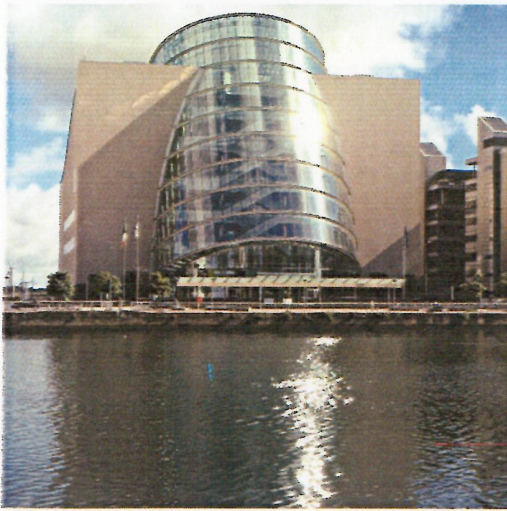


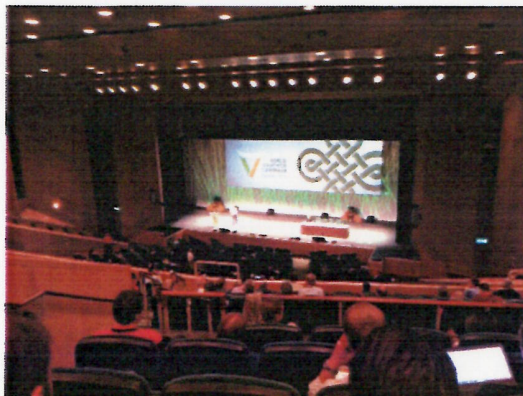
マネージメント情報 2016年 7月

世界牛病学会 (World Buiatrics Congress WBC)

アイルランドの首都ダブリンで行われた第29回世界牛病学会に参加する機会を得て行ってまいりました。世界各国から獣医師2000人以上が参加し、全体の参加者は3000人規模となる大きな学会です。今回は7月3日～8日の開催で私は3日～6日までの4日間参加できました。この国際会議は1960年から続いていて、2年に1回開催されていて、2018年にはアジア圏で初めて札幌で開かれることになっています。



ダブリン市内 コンベンションセンター昼と夜



学会風景



ダブリンの街並み

アイルランドは、人口が450万人ほどですが様々な経済が発展していて、1990年代には「アイルランドの奇跡」といわれる経済発展を遂げた国だそうです。町は歴史に満ちていて、古い建物が多く残っています。その一角に小泉八雲の育った家が残されているそうです（今回は見ることはできませんでした。最も、それまで小泉八雲がアイルランド：ダブリンの人だとも知りませんでした）。

面積も北海道よりやや広い程度のところに450万人の国民がいて、100万人以上がダブリンに住んでいるということで、北海道と札幌の関係によく似ています。気候は、夏は涼しく、27℃くらいになるのはほんの1週間程度、逆に冬はほとんどマイナスにならないという土地柄で、冬と夏がきわめて短い気候だということです。牛には天国のような国のようですね（3月から10月いっぱい放牧できるそうです）。過去には大飢饉や独立戦争などいろいろと苦労しながら、今では住みやすい国のトップに数えられ、GDPはEUのなかで2番目に高い国になっているということで、わずかに人口450万人の首都にある空港とは思えない程大きな国際空港がありました。

我々がよく知っているアイルランドといえばやはり、ギネスビールやJameson ウイスキー（大麦栽培が盛ん）、あとはアイリッシュダンスなどでしょうか。

今回、数え切れない程の口頭発表やポスター発表がありました。いろいろ印象にあるものがありましたが、個人的に印象に残ったのは、今世界中の牧場で問題になっているDD（PD 趾皮膚炎）についての発表でした。そしてこのDDに対するワクチン開発が最終段階に入っているということのようです。また、このDDが今、豚やヤギだけでなく野生のシカなどにも感染が広がっているということです。DDは、趾だけではなく乳頭や乳房にも感染が広がることも重要なポイントになっています。DDワクチンの発売が強く期待されます。あと、会場の笑いもとっていたようですが（自分は聞いていなかった）、犬が訓練によって黄色ブドウ球菌をきわめて高い確率でかき分けるというものです。笑えますがであれば、犬は訓練すればきっとケトージスや子宮内膜炎などもわかるし、抗生物質混入乳汁などもわかるようになるということでしょうね。

黒 崎